

企業と未来という現実へ

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業は変化という現実へ新たに自己を要求される。これらは経済の変化は技術とシステムにおいて、新たな企業環境における変化を有するからである。

これらは経済が生き残りという現実を有するため、グローバル化という現実とともに、新しい企業要求をクリアし、新たな市場への参加が要求されることは真実なのである。

これらキーワードは次世代という、新たな現実が存在するのである。自由経済システムはそれを牽引するものである。

これらは製品と機能性が新たな生活の利便性を創造し、これらは新規システムと基準において、ソサエティ 5.0 という現実とデジタル社会という現実において、全ての産業が自己転換を要求されることが存在するのである。

これら新しい潮流はすでに全てのビジネスにおいて、現実なのである。これは IT 産業から、IoT という現実が全ての現実の変化を行なっているのである。

これらは規模や資本力とともに、全てのビジネスという現実の変化を創造しているのである。また新たなエネルギーや技術という環境は、ベンチャーというビジネス潮流を有するのである。

これらは新しい経済の創造性が存在することを意味するものである。これらは完全な経済の構造転換が存在するのである。

これらにおいて、新しい現実への対応と自己の転換における新しい現実への参加は、企業の既存価値観から新しい現実への転換を必ず要求するのである。

これらは、企業構造と企業経営基準の完全な転換において新しい社会と世界、市場環境に企業を適合させる必要があるのである。

これら企業経営環境の転換は時代性と世界性への適合において、新しい企業の可能性を自己に与えるものである。

黒田インターナショナル